



ひっぴだより No.13 2020.3.17

「おっばいをあげながら」

高校時代、教会学校のお手伝いに声がかかり、小さな子どもたちと出会い、子どもたちが面白くて、児童心理を学びたいと高三で進路変更、大学は児童学科に進みました。専門科目の勉強にわくわくし、初めて学ぶことの楽しさに気付いた4年間でした。

私の学生時代は日本を変えたいと大学紛争が起こり、毎日のように議論を戦わせ、自分の想いを言葉にすることの大切さを知り、私はどんなふうに変えていきたいのかを一生懸命考えていました。私の答えは、時間はかかるけれど「平和を築こうとする子どもたち、仲間と繋がりながら自分の思いを持てる子どもたち、自分を好きでいられる子どもたち」を育てて日本を変えていこうと「決心」しました。それから50年以上、苦しい辛い時に折に触れこの「決心」を思い出し、リセットされ、また深い気持ちで子どもたちの前に立っていられました。

卒業後横浜の幼稚園に勤め、夫が大学院を出るのを待ち、夫と共に北九州市八幡に住み始めました。自分の子どもは自分で育てたいと思っていましたので、主婦を選択し、わくわくと子育てが始まりました。子育ては嬉しかったし楽しかったし幸せだったけれど、外出先は買い物と公園と病院という単調な日々の中で、話す内容が乏しくなっていく自分、時々息が詰まりそうになる日常に戸惑っていきました。おっばいを幸せそうに飲むわが子を愛おしく思いながら、このモヤモヤからどうやって脱出しようとする日々。そうだ！忘れていたけれど私には夢がある！平和を創り出すような子どもたちを育てる仕事をする夢がある！そのためは今、乳飲み子がいる状態で何ができる？と思い至りました。

私の夢を叶えるために今、できること。子どもたちが丈夫な身体じゃないと私の夢は叶えられないから、健康な身体をしっかりと作っておいてあげよう。そのためは、身体に良い手作りのご飯をしっかりと作ろう。わが子が自立できないと私の夢は叶えられないから、丁寧に生活力を育ててあげよう。私がいなくても淋しくならないように、今、たくさんの楽しいことをだいにしよう…単調だけれど、忙しい「今」は全て私の夢を叶えるため、と思えたらあつという間に楽しい一つ一つになりました。

4人のわが子が少しずつ成長し、「今、できること」は空想だけではなく家庭文庫に発展しました。私の絵本の蔵書を地域に開放し、毎週のお話し会を始め、地域の子どもたちと人形劇を作り演じたり、たくさんの集団で遊んだり、20人位の子どもたちを連れて図書館に行っ

たり…わが家は人の出入りが多くなりご近所さんが集まる場所になりました。この在宅時間が多かった20代後半～30代前半は、私が衣食住を学ぶ時間にもなり、家庭のペースが少しずつ整っていきました。

4番目の長男がもうすぐ2歳という時に、東京は吉祥寺に移転してまもなく幼稚園勤務の話が舞い込みました。息子の幼稚園の送り迎えは自分でしたかったので、息子が一年生になるまでパート勤務をお願いし、一年生になると同時に主任教諭となりました。学校の学級委員や学童クラブの委員なども引き受け、忙しい日々の始まりです。

幼稚園の子どもたちの生命と育ちを守るには、生半可な気持ちで保育はできませんし、プロフェッショナルな仕事をするには覚悟が必要であることにも気づいていく日々でした。わが子たちには折に触れて、大好きで大切で、目の前にいてくれるだけで嬉しいと伝えてきましたが、同じように幼稚園の小さな子どもたちの生命や育ちを守るのが「お母さんの仕事」であることも伝えていました。そのために、万が一災害があっても、幼稚園の小さな子どもたちが全員無事に帰れるまではわが子たちを迎えに行けないことも伝えていました。みんなのことは、そこにいる大人が守ってくれることをしっかり話してきました。

わが家の毎日の食卓は、それぞれが話したいことがあり賑やかでした。私が幼稚園の子どもたちのエピソードを語ることも自然でしたので、わが子たちは会ったこともない幼稚園の一人一人の名前を覚え、「〇〇ちゃんは今日、どうだった？」など、食卓で幼稚園の子どもたちの育ちを語ることも多かったです。多分、そんな時間は、わが子自身が自分を客観視できる機会だったようにも思います。

一年生の時から私がついていけないことも多く、息子は一人で病院にも行っていました。仕事帰りに病院に寄り、ドクターとわが子の話をし、お支払いを済ませました。入学式・卒業式・保護者会・運動会など母親が出られないこともあり、家族で協力して乗り切りました。息子が幼稚園年長児だった時の運動会は中学生の長女が行き、クラスの保護者プログラムに長女が参加したのは今でも懐かしい思い出です。そんな体験から、子どもが一人でできることは想像以上にある、年上の子どもたちのできることを奪っていた、周りにいるたくさんの方と繋がるのがだいじ、と気づいていきました。

子どもたちが小さい時は必死の毎日でしたけれど、わが子と深く繋がる経験を重ね、子育ては一緒にいる時間ではなくお互いに思いやる気持ちと語り合う日常があれば、子どもは自分で吸収し、親の覚悟も感じ取り、家庭はみんなの力を合わせて成り立つことを理解し、自分で育っていくのだと思えるようになりました。

今、無償化政策でたくさんのお母さんたちが仕事を始めようか迷っていたり、今しかないこの子育てをもう少し楽しみたいけれど揺れます、と戸惑っています。それぞれの大切な人生が振り回されないよう、今一度、自分は何を大切にどんな人生を歩みたいのか、夢は何な

のか、おっぱいをあげている時のようにゆったり考えられる時間を大切にできますように。おっぱいをあげながら、小さい子どもたちとご飯を食べながら、お風呂で語り合いながら、お布団での絵本タイムに、皆さまのご家庭が深い幸せを感じる日々でありますように。そしていつか、大人も子どもたちも、それぞれの人生が花開きますように。

おおくりの保護者の皆さま、それぞれの想いでびっぴを愛し、育てて下さってありがとうございました。びっぴという母港から果てしない世界へ船出していく12人を送り出します。大きな波が来て、不安になったり骨休めしたくなったらいつでもびっぴの森に帰って来て、充電してくださいね。

真永ちゃん、澄恰ちゃん、英志くん、玄太くん、さくらちゃん、渚ちゃん、沙季ちゃん、夏樹くん、美讀ちゃん、紅ちゃん、紘平くん、咲紀ちゃん、ご卒園おめでとう！みんな遊びたいこと、やりたいことがいっぱいあって、プログラムを伝えたりお出かけを伝えたら必ず「えーっ！！」と反応するけれど、またそのプログラムを楽しみ自分流にしてみました。いっぱいわくわくすることも困ったことも考え合ったね。一人一人に「わくわくどきどき」がいっぱい！小学生になっても「難しい？大丈夫！前にお友だちと仲直りした時がもつとずっと難しかったと思うから」だよ。4月からぼろびっぴで続きができるのを楽しみに待っています。

くり・まつぼっくり・どんぐりの保護者の皆さま、この一年もたくさんのご協力と、温かいお支えを頂き、何よりも笑い合いながら子どもたちのことを語り合ってきました。かけがえない嬉しい一年でした。本当にありがとうございました。子どもたちが一つ、大きくなることに喜びを感じているように、私たち大人も、新しい一年を柔らかな心で、手をつないで、喜び溢れるように年を重ねていきましょう。

4月7日火曜日 びっぴの森でお待ちしております。

: 眞弓

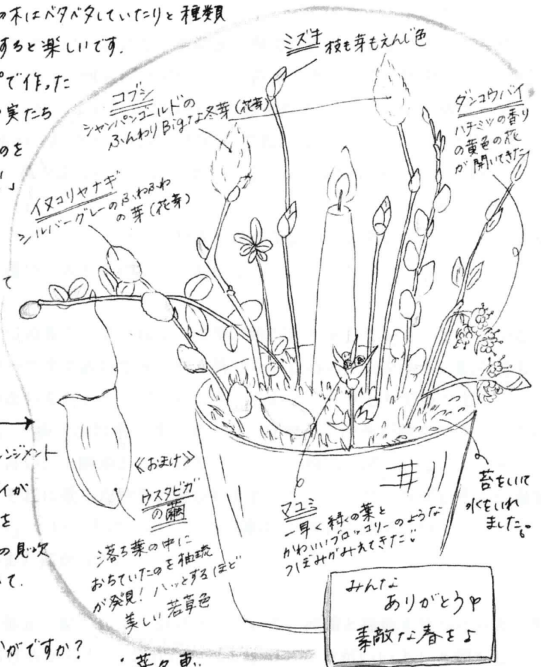
〜自然とともたら 最終回 3月 ♪木の芽・花の芽 ♪

『森の木のおたよみと〜 固い殻にかまれたよ 小さな木の芽がみつから〜』
 『寒い冬でも 負けるな負けるなと〜』 見子が先日 ぴらひからの帰りの車でロズさんでいました。『まもり』という子ども讃美歌。メロディも歌詞もとても素敵で、ああ、この季節に合ったんだね... この子もこの歌が好きなのかな... ととても嬉しくなりました。この歌の歌詞にある「木の芽」は3月の早春の光を受けて少づつ森でふくらんでいきます。中には少し緑がのぞいているものも...

木の芽は歌の通り冬の寒さ(主には乾燥)から中に入っている葉や花を守るため芽鱗というウラシメの殻で包まれています。それは時には桝やニルヒなどに包まれるようにふわふわのたり、折る木はバクバクしているりと種類ごとに違っていて観察すると楽しいです。

先日、見子がひらひで作った Xmasプレゼントの木の芽たち

が「さくさく」とわくわくしているのをみて、「水、春はよよ！」といったので、早速出て色々各芽をチョコ、チョコといたでいてきました。そして水と器にいれ、茶をいれてさあかたのこ〜んは感じて、とても素敵な早春のプレゼントになりました。ダンコウバイが一早く咲きだし甘い香りを漂わせています。生命の見次をエネイターを感じられて、天気はたま〜ぜび、お二人もいのがですか？



: 葉々恵